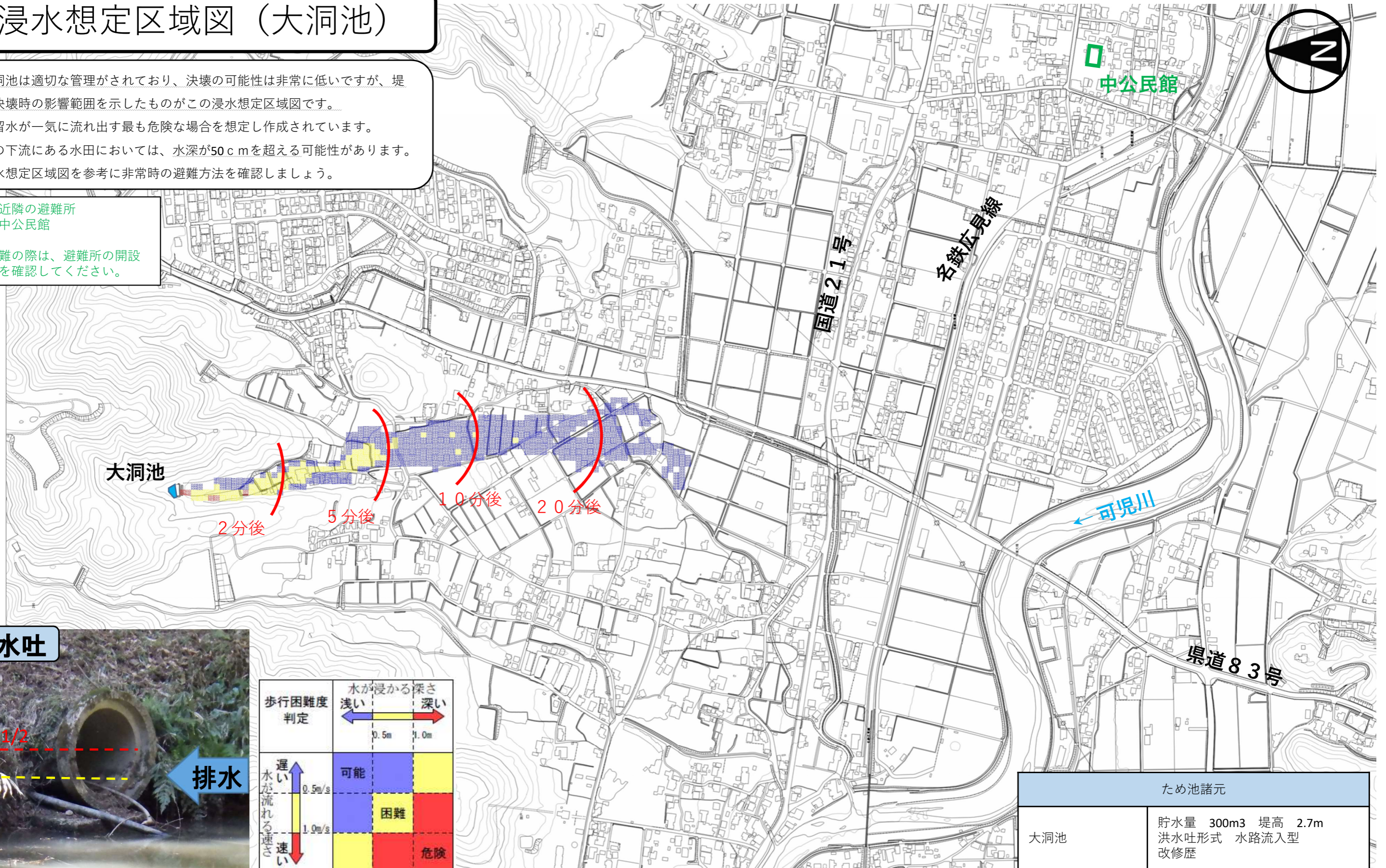


# 浸水想定区域図（大洞池）

大洞池は適切な管理がされており、決壊の可能性は非常に低いですが、堤体決壊時の影響範囲を示したものがこの浸水想定区域図です。  
貯留水が一気に流れ出す最も危険な場合を想定し作成されています。  
池の下流にある水田においては、水深が50cmを超える可能性があります。  
浸水想定区域図を参考に非常時の避難方法を確認しましょう。

□ 近隣の避難所  
・中公民館

※避難の際は、避難所の開設状況を確認してください。



## 洪水吐



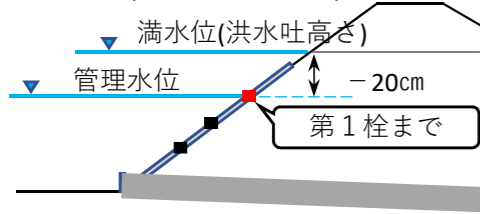
歩行困難度判定	水が浸かる深さ	浅い	深い
		0.5m	1.0m
水が流れる速さ	遅い	可能	危険
	速い		
	0.5m/s	困難	
	1.0m/s		

ため池諸元	
大洞池	貯水量 300m <sup>3</sup> 堤高 2.7m 洪水吐形式 水路流入型 改修歴

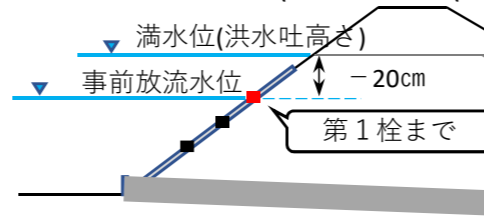
## ため池管理水位

大洞池において農閑期には、低水位管理を行うことで地震による決壊被害を小さくできます。  
大雨や台風通過が予測される時には、事前に水位を上げておくことで越水や決壊のリスクを小さくできます。

### ①農閑期(10月～3月)



### ②大雨・台風予報時(かんがい期(4月～9月))



## 大洞池 管理状況

- ・草刈り：年1回～2回  
草刈り時に堤体及び施設の点検（ため池管理アプリや点検チェックシートによる）
- ・管理水位：左記による
- ・管理手法について  
ため池管理マニュアル⇒



## ため池上流域について

上流域には、直接ため池に影響を及ぼす要因はありませんが、浸水想定区域の一部において、土砂災害特別警戒区域と重なっているエリアがあるため注意が必要です。